



100円基金Q&A

Q 100円基金は何に使うの？

A グリーンコープ生協ひょうごのエリア全体の福祉活動に使われます。地域の福祉活動への助成や、福祉ワーカーズの育成や運営の助成に使われます。また、子育て応援の取り組みなどそれぞれの地域で必要とされている福祉への使い方を検討します（たとえばデイサービス建設の資金にも）

Q 転勤族です！
グリーンコープのない地域に住んだら利用できないの？

A グリーンコープのめざす参加型地域福祉は、住んでいる街を住みやすく、またその地域にとどまらず広く福祉を変えていく力になることです。まずは、今住んでいる街を住みやすくしていくことから考えます。自分が拠出した100円はその活動の一部かもしれないけれど、様々な場面で活用され誰かの役に立っている、、、そんな助け合いの参加型地域福祉を目指しています。

Q 100円は出し続けるの？返してもらえるの？

A 計画的な取り組みを考えたとき、基金という形の確実で継続的な拠出が必要と考えます。基金は1年ごと（4月～3月）の運用になり、年度末決済を行います。出資金とは違うので返金はありません。

Q 生協はたべものだけではないの？

A グリーンコープは「いのちとくらし」を原点とした商品の開発、減農薬の推進、環境問題など、様々な分野で“グリーンコープ運動”をつくりあげてきました。食べものから出発して、福祉活動が加わったことで、「誰もが安心して暮らしていける社会づくり」に近づいています。

Q 運用は地域差があるのでは？

A 基金の運用については、各地域から選出した基金運用委員の視点で検討・決定していきます。グリーンコープ生協ひょうごの活動エリア内での地域差のない運用を目指します。

Q 参加型地域福祉って？

A 同じ地域に住む人たちが、お互いにできること（労力・知恵・時間・お金）を出し合い、助け合って地域の福祉に参加していくことです。このような趣旨から、組合員全員の参加を目指しています。一人一人の負担は軽く、たくさんの人で支え合うことが大切だと考えています。無関心ではなく、参加して関心を持つことが始まりだと思います。しかし、どうしても「同意できない人」から強制的に集めることはありません。趣旨を理解して同意した方から拠出をして頂きます。

ワーカーズとは？

ボランティアでもなく誰かに雇われるのでもなく、生活者の視点から地域に必要な「もの」や「サービス」を事業化するために自分たちで出資し経営も労働も担う新しい働き方です。

オールグリーンコープではこんな想いをを持った人たちがワーカーズとして活躍しています

生きがい欲しい！
家事能力を生かしたい！
人の役に立ちたい！

お年寄りの話し相手
忙しいお母さんの子どものお世話や
産前産後・療養中のお母さんのお手伝い
(炊事・買い物・掃除など)
できることはたくさんあります



グリーンコープ生協ひょうご地域福祉プラン

2022年10月

100円基金ははじめます！！



これまでの取り組みの経過

グリーンコープ生協ひょうごは設立17年を迎えました。設立以来赤字続きで他県のグリーンコープで行われる地域福祉の活動は、今までできず、福祉の活動は考えられない状況でした。（社会福祉法人グリーンコープの家計相談室は8年前から神戸市より受託しています。）しかし2020年春よりコロナ禍になり、生活に困窮する方が増えたことを知り、グリーンコープの行う食糧支援や地域福祉を伝え、「いのちをつなぐための基金inひょうご」に取り組み、ひょうごでも地域福祉の活動が出来ないかと考えるようになりました。そして、2020年度は黒字となり、私たちにも「夢＝福祉の活動」を語る機会ができました。

2021年4月、組合員にむけた福祉アンケートを行い、「様々な福祉の必要性」や「福祉で活躍したい組合員のパワー」を感じました。そして、2021年6月に開催された第17期通常総代会で議案「ひょうごで福祉の活動をする事」「夢ヲかたちに！理事会の始動」が可決承認され、事業基金を使いながら少しずつ福祉の検討を進めています。現在はグリーンコープ生協ひょうごの「子育てサークル」やみんなが集える「居場所」として「ぐりんCafe」「ひだまり」「絵本の読み聞かせ会」等が始まりました。

福祉の活動を継続し広げるためには資金が必要です。グリーンコープ各県で設置されている福祉活動組合員基金（＝100円基金）がグリーンコープ生協ひょうごでも必要と考え、皆さんに伝えてきました。そして6月の総代会で福祉活動組合員基金の設置について、取り扱いを審議いただく予定です。

福祉活動組合員基金

100円基金拠出までの進め方

- 6月17日
総代会にてこれからの地域福祉活動の進め方、福祉活動組合員基金（100円基金）の設置を検討いただきます。
総代以外の組合員の皆様にもオブザーバーとして出席いただくことができます。
- 8月29日～9月9日
秋の組合員のつどいを開催します
- 8月29日～
福祉活動組合員基金同意・未同意書をお届けします。福祉活動組合員基金拠出について組合員の皆さんの意思確認をお願いします。
全組合員より集めます。
- 10月次請求（11月引落し）より毎月100円の拠出を開始する予定です。



組合員のくらしを守れるよう地域福祉に取り組みます

これまでグリーンコープは、「安全な食べ物」を中心に「自然と人の共生」「人と人の共生」「女と男の共生」「南と北の共生」という四つの共生を掲げて、グリーンコープ商品の開発、産直、国産、自給の取り組み、リサイクル（4R）、環境、平和、民衆交易等を進めてきました。

1992年から3年間かけて「これからの時代の中で組合員の暮らしを守るにはどうすべきか」という議論を重ね、そのテーマの一つとして「福祉」に取り組んできています。これは超高齢少子社会の到来が、女性にとって負担の大きい時代になるだろうという認識に基づいたものでした。



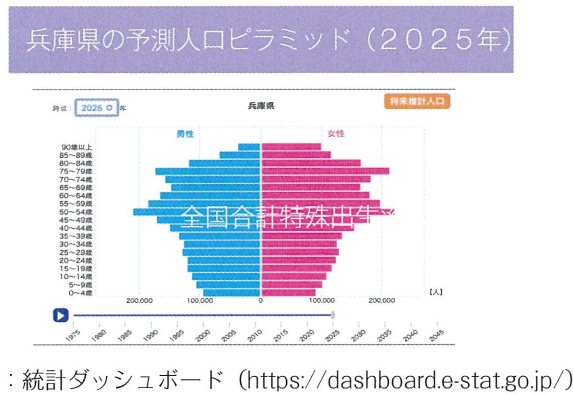
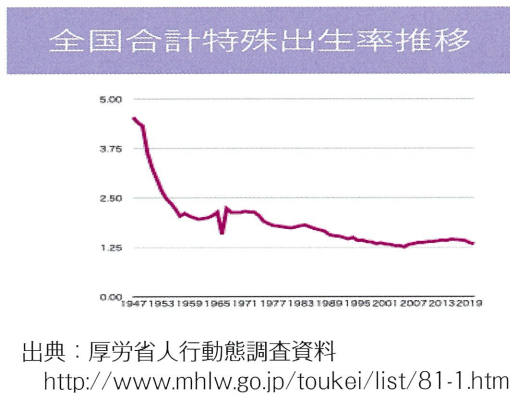
グリーンコープが福祉に取り組むことは、行政の肩代わりをするとか、行政がすべきことまでする、ということではありません。行政の行う「公助」と本人や家族でできる「自助」のすき間を埋める「共助」の仕組みをみんなで作り、「安心」して暮らせる個人を尊重する福祉を目指そうということです。

グリーンコープの福祉の考え方

- 全ての組合員に利益が享受されること
- ハンディの重い人がもっとも大切にされること
- 地域に開かれたものになっていくこと

少子化が進行し、超高齢化社会が到来しています

少子化の進行が止まらず、超高齢化社会となった日本。合計特殊出生率（女性が一生の間に産む子どもの数）は年々低下し、国が長期的に人口を維持できる人数は2.2人とされていますが2020年には1.34人と世界でも目立って低い水準となっています。一方で、国の総人口中65歳以上の高齢者の占める割合は29.1%と過去最高となっており、少子化超高齢化社会の様々な問題が表面化するといわれている2025年まであとわずかな時間しか残っていません。



組合員より寄せられた情報から見えてきた、ひょうごの問題

ワンオペ育児・児童虐待・子どもの孤食・8050問題・ヤングケアラー
コロナ禍による孤立・女性の貧困・子どもや大人のひきこもり・老人のフレイル



ひょうごでの地域福祉を実現します！

グリーンコープ生協ひょうごでは2021年「夢ヲかたちに！理事会」が始動し、組合員が地域の「夢」や「あったらいいな」を語り合っています。その中から主体的に出来ることとして「子育てサークル」、「ぐりんCafe」や「ひだまり」や「絵本の読み聞かせ会」等みんなが集える居場所、組合員活動の「託児」などの福祉の活動を事業基金（メーカーや生産者の協力による仕入れ値引き）によって、一步一步始めています。

そして、これから各地域でそれらの活動を広げたり、自分たちの身近な地域で『心配ごとを安心に変える』ための手助けができるような、福祉の事業を始め、担い手をたくさん育てていきたいと考えています。

全ての組合員の皆さんに100円基金の拠出をお願いします！！

グリーンコープでは福祉政策の実現のための財源確保を半分は事業から、半分は組合員みんなで準備していこうと考えました。



この福祉の財源は、供給高の1%を目安と考え、そのうち半分の0.5%を福祉活動組合員基金（100円基金）で準備することにしました。組合員の1か月の平均利用高は2～3万円と考え、2万円×0.5%=100円という計算です。また、100円という固定額にすることで、「利用の多い人ほど高くなる」という不平等をなくしています。“住んでいる街を住みたい街に”そして、豊かな気持ちで健やかに暮らしていけるように、組合員の声や要望にそって、さまざまな形で福祉活動組合員基金（100円基金）を活用したいと思います。

みんなの大切な100円基金は、基金運用委員会で管理・運用します！

組合員から拠出していただいた福祉活動組合員基金（100円基金）は生協の会計とは区別し管理・運用していくための『基金運用委員会』を設置します。この委員会のメンバーは、各地域の組合員の代表や理事会からの代表など、総代会で選出します。基金運用委員会は定期的開催されます。決定された基金の運用については、広報誌や報告会等で組合員に報告されます。

